

# 論文の要旨

題目 広島県の観光景観画像に対する心理的評価に文字情報付与が及ぼす影響  
(The Influence of Text Information on the Psychological Evaluation of Tourism  
Landscape Images in Hiroshima)

氏名 劉 娜

近年、観光は世界各国において、政府の税収入・雇用の創出・経済振興の観点で極めて重要な産業とされ、各国政府の政策においても、重要な位置を占めている。人口減少や高齢化に伴い、内需の拡大が難しい日本においても、更なる観光客増加を図るため訪日外国人観光客の増加が期待されている。このような状況下において、インバウンドのもたらす経済効果を獲得するため、インバウンド誘致を意図した様々な取り組みが活発化しており、国や地方自治体の様々な観光施策により、訪日外国人観光客数は年々増加傾向にある。特に訪日中国人観光客は顕著な傾向を示しているが、その訪問先は東京都や大阪府などの大都市に集中しており、広島県などの地方を訪れる中国人観光客はいまだ少ないのが現状である。したがって、インバウンド観光により地域振興を図る上で、中国人観光客の積極的な誘致は、これら地方において重要な課題であると考えられる。

本研究では、外国人観光客誘致のための基礎的資料、並びに、国内観光客の誘致やリピーターの確保につながる魅力的な観光資源発見のための新たな知見を得ることを目的として、日中両国の学生を対象として、広島県の観光景観画像を呈示する際に、併せてその画像に関する情報を付与して評価を求める心理的評価実験を行い、その結果を分析、考察している。

第1章では、インバウンド観光により地域振興を図るために、訪日外国人観光客、特に訪日中国人観光客の積極的な誘致の必要性を述べた後、これに関連する既往研究（異文化背景による景観の心理的評価の差異に関する研究、外国人の視点から観光地を評価対象とした研究、外国人観光客向けの案内情報や観光情報を対象とした研究）の整理を行い、本研究の位置づけを明らかにした。また、本研究の目的（目的①：文字情報の付与が景観画像の評価に及ぼす影響について検討し、心理的評価の傾向、評価の影響要因を把握すること、目的②：知識、訪問経験、旅行形態という各変数による文字情報の内容に対する評価・認識での日中の異同について明らかにすること、目的③：知識や経験を有していない中国人による文字情報の内容への捉え方の観点から、被験者の特徴と訪問意欲を喚起する文字情報との関連を把握すること）を明確化した。最後に、本研究の構成について説明した。

第2章では、先行研究で実施した広島県の観光景観画像に対する心理的評価実験と、本研究で実施した広島県の観光景観画像を呈示した際に併せてその画像に関する文字情報を付与した評価を求めた心理的評価実験の概要を述べた。また、実験で使用した観光景観画像と景観画像に関する文字情報の内容や作成方法などを示した。最後に、被験者の個人属性について述べた。

第3章では、日中学生を対象とした上述した両実験の結果を比較することにより、情報を付与するか否かによる景観画像の評価に及ぼす影響について日中それぞれで検討し、心理的評価の傾向、評価の影響要因、並びに、知識や経験の差異によるその影響要因の日中の異同について明らかにした。結果として、日中共に多くの景観においては、文字情報の付与によって、訪問意欲がより喚起される傾向が認められた。また、SD法によるイメ

ージ評価の因子分析結果より、全被験者の統合データでは「固有性」「開放性」「調和性」「伝統性」の4因子が抽出され、「開放性」「伝統性」に比べ、日中共に文字情報の付与による「固有性」「調和性」への影響が顕著であることを明らかにした。さらに、共分散構造分析による評価構造を比較した結果、『選好度』への「固有性」による影響が、中国人学生では両実験で正負が逆の値を示している一方、日本人学生では文字情報の付与にかかわらず、大きな差は生じなかったことを把握した。また、訪問意欲への「固有性」の影響については、日本人学生と異なり、中国人学生では文字情報の付与による変化が著しく、『日本人的特徴』と『選好度』との関連性がより強くなる傾向が認められた。

第4章では、日中学生を対象とした広島県の観光景観画像に文字情報を付与した場合における心理的評価実験結果に基づき、文字情報の内容やカテゴリに着目して、文字情報のみによって観光地の印象を求めた結果を、その後、文字情報に併せてその観光地の景観画像を呈示した際に求めた結果とを比較することにより、文字情報に対する捉え方や訪問意欲への影響の変化における知識や経験の差異による日中の異同、並びに、文字情報と観光地に対する評価との関連性について明らかにした。結果として、「訪問希望の有無」を判断する基準が画像の呈示によって変化する傾向が、日中に共通してみられるものの、多くの景観で、中国人学生は評価が低下し、日本人学生は評価が向上するなど、影響の態様が日中で異なることを把握した。また、日中共にいずれのカテゴリでも、各説明文によって訪問意欲は総じて喚起される傾向や、同一カテゴリの説明文においても説明文の具体的内容により、評価が異なることを示した。最後に、「訪問希望の有無」を説明文に対する評価によって説明しようとした重回帰分析の結果、多くの景観で、日本人学生は中国人学生より決定係数の値が低く、説明文の評価による説明力がやや乏しいことから、景観画像や文字情報以外の情報が、訪問意欲の判断に影響を及ぼす可能性が示唆された。また、各説明文に対する重視の様態の日中の異同に基づいて、32景観を大きく「類似型」、「相反型」、「その他」の3グループに分けた。「類似型」では、日中共に若年者が嗜好する体験や、想像を超えるような規模に関する内容を重視する傾向がみられたのに対して、「相反型」では、中国人学生は広島より、日本的要素や日本ならではの体験、日本人学生は自国の日本的な体験より、広島という特別性や、中国人学生のわからない知識や経験を前提とした詳細な情報に着目するなど、嗜好の異同を明らかにした。

第5章では、引続き中国人学生による広島県の観光景観画像に文字情報を付与した場合における心理的評価実験結果を用いて、文字情報に対する直接的な反応と考えられる文字情報のみによって観光地の印象を求めた結果に着目し、中国人学生をそれぞれの嗜好の観点からグルーピングし、文字情報と観光地に対する評価との関連性について明らかにした。結果として、被験者を大きく3グループに分け、各グループの個人属性の特徴を把握した。また、各グループの評価結果の比較により、カテゴリごとの評価や「訪問希望の有無」との関連における各グループの特徴を明らかにした。すなわち、年齢や知識などの個人属性にかかわらず、その場所で何が出来るかという体験に関する情報による「訪問希望の有無」への影響が大きいことや、その場所の歴史文化や固有の特徴などに関する情報に対する認識や理解は、日本や広島に関する知識や経験の多寡によって異なり、説明文への判断基準も変化することから、「訪問希望の有無」との関連も異なることを明らかにした。さらに、各グループの嗜好内容の比較により、年齢の増加や知識の豊富さに伴い、能動的活動から受動的活動へ、対象地の単純な珍しさから建築的、文化的な要素へ、景観の歴史性を表層的に評価する姿勢から深層的な価値を見出せるように変化する傾向など、各カテゴリにおける各グループの特徴を把握した。

第6章では、得られた成果をまとめて結論とし、今後の展望について触れた。